

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

NO. 119

1962. 7月 (8月5日)

録 事

7月9日 15時より特別研究室会議室で浅野・大嶋・岩城監事の監査を受けた。宮地会長は止むを得ない用務のため、学校側委員と会談の後夜行列車で帰宅。

7月10日 9時より特別研究室会議室で、昭和37年度委員会を開催。記事別記。

7月11日 肺岡委員・深見事務主任の二名は、明光バス本社に藤井庶務課長を訪問し、手数料値上げのことについて委員会の状況を報告し、振興会のなりたち・性格等につき説明し、過日行なわれた会計検査院の結果が判明する9月頃までは現状のままでおくよう依頼をなす。

7月16日 近藤技術員は脱腸手術のため、国立白浜温泉病院に入院、手術後は経過観察26日無事退院。

7月19日 19時45分より22時45分の間に、水族館事務室のカラスを割って窃盗が侵入、入場券を入れた手提金庫及び眩異新陸会費が盗難にあった。警官の捜査により24時頃入場券入りの手提金庫は附近海岸より発見された。

7月21日 NHKテレビより教育テレビフィルム撮影のためカメラマン一行6名来館し、本日より24日までの間水族館内外及び附近海岸で撮影をなす。

7月25日 第3回実行委員会において議長は肺岡委員から内海委員に交代。

7月27日 台風7号襲来し、南紀に上陸も予想されたので、水族館は保安要員を残して午後は閉館とする。この台風は13時30分頃白浜の近くに上陸し、最低9825mm.を示したが、被害はなかった。

業 務 概 況

◎ 7月の入場者数

区 分	大 人	中 人	小 人	合 計
水族館発売	7045	152	829	8026
個人				
団体	14586	—	—	14586
交通公社発売	2833	—	—	2833
近鉄日本発売	315	—	—	315
日本旅行会発売	126	—	—	126
明光バス発売	14137	—	648	14785
合 計	39042	152	1477	40671
累 計	255663	740	5698	262101
無 料	白班才一小学校児童		141	489

団 体： 一般 117組, 学生 36組, 合計 153組

◎ 7月の事業収入

(今年度累計)

観光券売上金	1,141,748	7,722,181
窓 口 発 売	525,085	3,487,703
交通公社クーポン	75,961	795,096
近鉄日本ツリストクーポン	6,518	40,812
日本旅行会クーポン	3,294	19,250
明光バス観光券	530,890	3,379,320*
予金・積立金利息	—	—
手 数 料	27,674	234,402
絵はがき拂 下	51,780	303,330
パンフレット拂 下	5,820	40,260
南極生物報告書 下	—	1,830
魚 類 拂 下	1,200	7,600
雑 収 入	4,050	19,560
合 計	1,232,272	8,329,163

※ 明光バス観光券未収分

大人券	3638枚
小人券	487枚

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	221,337	1,243,882	
会議費	32,505	50,865	
備品費	—	141,145	
消耗費	900,64	339,886	
事業費	19,970	267,849	
維持費	50,380	195,781	天窓工事他
其他諸経費	179,650	576,503	観光協会へ寄付金他
積立金	183,313	1,450,492	
予備品	—	—	
合 計	777,219	4,266,403	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	48,350	
奨学金	10,000	40,000	
備品費	2,650	2,650	
消耗費	—	—	
刊行費	—	—	
役務費	655,010	712,510	学生寄宿舎風呂場工事
合 計	667,660	803,510	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	—	27,580	
備品費	—	—	
消耗費	—	—	
役務費	—	—	
合 計	—	27,580	

臨時費

費 目	金 額	累 計	備 考
合 計	—	5,660	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	777,219	4,266,403
実験所経費	667,660	803,510
伝物館経費	—	27,580
臨時費	—	5,660
合 計	1,444,879	5,103,153

◎ 7月末現在高

前月よりの繰越	3,438,617
今月の収入合計	1,232,272
今月の支出合計	1,444,879
現 在 高	3,226,010

◎ 前年度との比較

	1961	1962	増 減
入 場 者 数	39371	40671	+ 1300

昭和37年度委員会総会記録

日時 昭和37年7月10日 9時～12時

場所 京都大学瀬戸臨海実験所特研会議室

出席者 浦委員, 峯尾委員, 内海委員, 野岡委員, 布施委員, 宮谷委員, 浅野監事,
岩成監事, 大嶋監事 以上9名. オブザーバーとして荒原研究員,

書記: 深見事務員

記

1. 議長選出

1) 宮地会長は用務のため9日要談をすませて夜半帰洛, 内海委員が議長をつとめることとなった.

2. 議事決定

1) 議題案の通り決定

3. 1961年度経理及び事業報告

1) 1961年度の最も大きな事業は, 水族館新館の増築であった. 新館増築に関する支拂いの当初契約分については, 全額支拂っている. 追加工事分については未支拂いとなっているが, 追加工事完了次第支拂う予定である.

4. 監査報告

1) 水族館経費は事業会計であるから, 予算通りに実行できぬ事もあり得るが, 実験所経費は予算通りに実行すべきである.

2) 伝物館経費の特徴が明瞭でない. 特に人件費に関しては, 伝物館経費の給料を使って水族館で働いている不合理がある.

3) 福祉厚生費の使用目的に, “職員組合行楽”その他の記載があるが, 労働組合に対しては何らの形にしる援助は許されないから, 伝員組合の性格・名稱を明らかにしておくこと. それが明瞭であるならば, その団体への補助金として一括支出ができる. 以上の3点が注意された.

常任委員代表より

1) 36年度実験所経費は, 原稿が異常に集まり出版物が多くなって刊行費が膨張したため, 予算を大きく上越った.

2) 伝物館経費の給料及び手当は即刻水族館経費に移しかえ, 他の項目はいずれに合併したらよいかを研究して, 明年度予算を作成する際に処理をする.

- 3) 職員は福祉厚生費の一括支給を受けられるように、団体の性格を明らかにし、名稱などを相談するようにしたい。

5. 1962年度予算審議

- 1) 1962年度予算は既設工事・購入済み物品に対する支払額が大きいのが特徴で、従って融通性は乏しい。
- 2) 接待費は外人研究者の接待費用が大きい部分を占めている。
- 3) 諸施設改善費は観光券売上げの $\frac{1}{6}$ を計上した。
の説明があった後
 - 1) 福祉厚生費は1人1万円当23万円を計算の基礎とし、25万円とする。組合の性格に因しての保障が得られないから、団体補助金としての一括支出はできない。
 - 2) 予備費を5万円増額して249,500円とする。
の補正を行って成立、なお次の3点が決定された。
 - 1) 明光バスの連帯が断たれることが予期される折には、できるだけ経費をきりつめ、連帯が断たれた後、経営に困難が生ずる兆が察知された場合には、十分の余裕をもって予算措置が講ぜられるように臨時委員会を召集すること。
 - 2) 最近番所山動物園が明光バスとの連帯を断たれた結果、連帯券取扱いによる手数料収入は明らかに予算案の600,000円より減少するが、このことは現在は補正しない。
 - 3) 実験所経費・奨学金による黒田徳米氏の同類研究援助に関しては、金額の増加、その他の必要があれば常任委員に於て具体案を作っておくこと。

6 積立金歳出科目の性格等について

- 1) 災害時資金は災害のため営業が出来なくなった折の職員の給料支払いにあてるのが目的であるが、委員会の決定により、災害による他の面へも使用できる。目標額は別に定めず、従前通り積立てて、余裕がある場合は適宜積立金を増額してもよい。
- 2) 諸施設改善積立金は $\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{6}$ の経過をたどってきたが、37年度は $\frac{1}{6}$ でよい。
- 3) 伝物館経費は監査報告の際に述べられた通り。
- 4) 本部経費（役所費に類するもの）を設けて科目の分類を適正にすることは必要である。十分研究して明年度予算の時より実行する。

7. 入場料の値上げについて

明光バスの手数料とも関連して検討されたが、

- 1) 本日の予算案からは値上げの必要性はみとめられない。
- 2) 値上げのための資料が整っていない。

値上げによらねば処置できない事態を生じない限り、単に水族館の次期工事資金蓄積のための値上げを行なう事は保留する。

8. 観光業者との契約について

- 1) 日通観光よりの契約申込については、事業許可書・資産状体 明らかに示す書類を添えて申込み書を出させ、前回委員会で決められた条件に該当すれば、定められた条件内で契約する。

- 2) 明光バスよりの手数料10%への引上げ要求に対しては、

a. 振興会のあらゆる面で財務局より許容される限界があること。

b. 観光客への便利と云う立場から、差帯を切ることは望まない。

の二点を中心に対策が協議されたが、明光に対しては何よりも振興会の特殊事情を正確に知ってもらうことが必要であるが、本年度の会計検査院の結果が明らかとなる9月頃までは、はっきりとした結論を出すことは到底不可能ということになった。峯尾委員・浦委員・学校側1名で明光に当たってみるのも一つの方法であるが、一応常任委員で研究して貰いたい。

9. 職員退職金の検討

振興会職員の厚生年金制度による退職金は、国家公務員共済組合によるそれに比べて非常に小さい。これを額面通りに埋めることは到底不可能であるが、何らかの優遇策をこうじて、この格差を縮めることは必要である。これは取制・給与規定と併せ研究されるべきで、まず現地の実行機関において早急に案を作成する。

10. 今後の振興会の運営について

- 1) 委員会の機能のうち、運営は従来現地実験所委員（常任委員）による常任委員会に任せられ、常任委員代表が、委員会に基づく水族館経営、その他の事項の実行を監督する責任を負ってきた。本年度は試験的に、実験所委員（常任委員）4名、水族館職員（幹事）2名 よりなる実行会議（仮称）に運営を任せ、実行会議は議長・渉外及び対委員会連絡係を互選して機能を整える。という方法により水族館職員の地位と責任を向上することとなった。

なお幹事は委員会に出席するが、議決はしない。意向又は意見を求められた場合には発言することとしてある。本年度の経過を見た上で、この制度を振興会の規約に織り込むことを考える。

11. 番所山植物園入園料について

番所山植物園より入園料現行20円を30円に値上げ希望の申出あり；これを了承する。但し値上げ実施までに契約書の手入りを完了すること。

水 族 館 記 事

- ◎ 2日 249mmの集中豪雨と低潮時(12時08分 5cm)が重なったため、海水の塩分が著減し(S=18.04‰)後の動物が大量に死亡した。
開放式の第一水槽室では、主な甲殻類は新館の単独循環水槽へ避難させ、No.4.(サンゴ類) No.5.(ムラサキハナギンナヤク) No.28(マダコ)の3槽は給水を止め、食塩を投入して鹹度を高めたのち、小型エアープンプで送気してしのいだので事なきを得たが、処置が間に合わなかった小型甲殻類、棘皮動物の多くを死なせた。
- ◎ 3日 G水槽冷却炭コンデンサー内の垂鈍片(これが先に腐蝕して器内の防錆の後目をする。)4コを新品と取替えた。冷却機の運転開始から2ヶ月余で完全に腐蝕しており、今後も定期的に点検、取替を要する。
- ◎ 4日 洩水止めの工事が終わったE F両水槽のフィルター泥砂を再セットした。
- ◎ 5日 I J K水槽の洩水止め再工事開始。この3槽の水族はR) No.32 E Fの各水槽へ移す。
- ◎ 7日~9日 H水槽の大ダイ、コブダイが相次いで、白点病のため死亡。何れも、年令査定用に鱗を保存し、魚骨にとってその姿を残した。
- ◎ 13日 高水温に加えて、大雨以来、海水の鹹度が低下したため、白点病が猛威をふるい、H水槽はついにサメ類を残して全滅した。病勢がやまおさまるまでこの水槽は白点病の対象となる魚類の補充をさけることとし、ウミガメ類5個体をNo.22水槽より移した。
- ◎ 15日~17日 理学部大学院学生のためのアクアラング講習会に、水族館飼育係も参加受講した。
- ◎ 16日~27日 近藤技術員の入院中、布施委員及び飼育係2名が交替で水族館の宿直を行なった。
- ◎ 24日 冷却装置の起動が不調で、G水槽の水温が16.4℃まで上昇したが、午後8時には復旧、タカアシガニ5個体には異常なかつた。
- ◎ 27日 台風7号襲来のため、開放式水槽の塩分が低下(S=24.58‰)したが、被害は甲殻類数個体に止まった。
- ◎ 31日 香藤商店森技師、大阪金屋整備課員が来館、G水槽冷却装置の点検と調整を行なった。 (49)

◎ 7月の採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的
6日午後	田月島北側	潜水浅採集	3名	タツノオトシゴ飼料
8日	塔島東側	潜水	3名	中型魚類
18日	〃	磯釣	1名	ベラ類
19日	番所山下の浅	タイドプール採集	2名	幼魚類
22日	塔島東側	潜水	2名	熱帯性小魚類
23日	〃	〃	2名	〃
30日	田月島北側	タイドプール採集	1名	幼魚類

◎ 主な採集水族名

魚類：ゴンスイ インダイ ギンユゴイ キンギヨハナダイ イタチウオ
クロスジギンボ オヤビッチヤ スズメダイSP セダカスズメダイ
ホンソメワケベラ カゴカキダイ アミモンガラ シマキンチャクフグ ワニゴチ
シマウミスズメ

無脊椎動物：サンゴイソギンチャク ヌメリトサカ キイロトゲトサカ
オトヒメエビ タツナミガイ ジャノメアメフラシ アオウミウシ
サラサウミウシ ノコギリウニ

前月号に記載した クロスジウミウシSP と シロハナガサウミウシSP は、馬場菊太郎博士の査定をおいだところ、クテスジリュウグウウミウシ (新和名) Nembrotha kinolata Bergh、サンゴハナガサウミウシ (仮新) Trifonia (Duvaucelia) SP nov と判つた。両種とも標本は同博士に提供した。

◎ 主な購入水族名

魚類：シロサメ カササメ ゴイシウミヘビ ウッポ トラウッポ イトウダイ
イトヨリダイ ヨコスジフエダイ フエフキダイ トラギス メガネウオ キエウセン
オハダロベラ ケヨウケヨウウオ アイゴ ニサダイ クロウシノシタ
クロコバン

無脊椎動物：イボガサミ メガネカラッパ アサヒガニ バイ マホヤ エホヤ

◎ 7月30日現在飼育中の動物は、総計266種、2,340個体以上で、その内訳は次の通り、このうち観覧水槽に収容展示中の動物は、255種、2,290個体以上

カイメン類	2種	多毛類	4種	タコ類	1種
ヒドロ虫類	2種	カブトガニ類	1種	ウミジダ類	4種
ウミトサカ類	4種	フジボカマナ類	1種	ヒトデ類	7種
ヤギ類	6種	エビ類	11種	クモヒトデ類	3種
ウミエラ類	1種	ヤドカリ類	4種	ウニ類	13種
イリギンヤク類	10種	カニ類	19種	ナマコ類	8種
イシサンゴ類	9種	アマフラシ類	3種	ホヤ類	5種
ツノサンゴ類	1種	二枚貝類	12種	硬骨魚類	102種
ハナギンヤク類	1種	巻貝類	16種	(内熱帯淡水魚 19種)	
ホウキムシ類	1種	カメ類	3種	軟骨魚類	7種

資 料

7月の気象 (09時 観測)

南水槽室 (水温、比重は No. 25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数:17	3	7	7
室温 (°C)	$\frac{22.8 \sim 25.2}{23.6}$	$\frac{24.2 \sim 27.8}{25.5}$	$\frac{27.0 \sim 29.1}{28.1}$
水温 (°C)	$\frac{22.48 \sim 23.60}{23.23}$	$\frac{23.82 \sim 26.24}{24.56}$	$\frac{26.32 \sim 27.00}{26.70}$
比重 (σ_{15})	$\frac{18.25 \sim 22.52}{19.82}$	$\frac{21.84 \sim 23.23}{22.46}$	$\frac{21.40 \sim 23.38}{22.67}$

取 入 口

水温 (°C)	$\frac{22.48 \sim 24.00}{23.43}$	$\frac{23.88 \sim 26.42}{24.88}$	$\frac{26.24 \sim 28.20}{27.33}$
比重 (σ_{15})	$\frac{20.31 \sim 23.96}{21.70}$	$\frac{22.38 \sim 23.34}{22.81}$	$\frac{20.32 \sim 25.07}{22.75}$

新 館

水 温	H (°C)	$\frac{22.4 \sim 23.5}{22.9}$	$\frac{23.2 \sim 26.0}{24.3}$	$\frac{25.8 \sim 27.3}{26.7}$
	Ta (°C)	$\frac{22.9 \sim 24.0}{23.6}$	$\frac{24.0 \sim 26.5}{25.8}$	$\frac{26.3 \sim 27.9}{27.1}$

未 訪 録

- 7月14日 京都大学内新聞記者クラブの一行11名未館, 当館並びに番所山植物園見学の後, 海底観光船にて観測塔見学並びに三段壱を海上より観光する。
- 7月23日 越前松島水族館技手補塲家弘氏外2名未館, 本日より25日まで3日間, 近海において魚類を採集する。

昭和37年8月5日 (NO. 119)

編集兼
発行者

内海 富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所
和可山県白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜島 515)